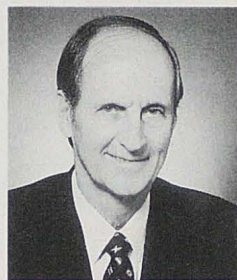




ロータリーの心を
Show Rotary Cares
あなたの住むところ
私たちの世界
そこに住むすべての人々に



職業奉仕への献身を新たに

Let's renew our dedication to Vocational Service

RI会長 グレン W. キンロス

Glen W. Kinross

1927年、ポール・ハリスは「社会のニーズに貢献する最も身近で適切な手段として自分の職業を高揚させることによって広がる見通しほど魅力的なものはありません」と書いています。注目すべきは、彼はこの言葉をロータリーの講演や出版物ではなく彼の所属している専門職グループ、シカゴ法曹協会ジャーナルに寄稿したということです。

今ロータリー年度、私たちはロータリーという組織を創設した弁護士と同様に、地域社会に貢献する、有意義で効果的な方法として自分たちの職業に視線を向けるべきです。私たちのロータリーライフにおいて、もっと職業奉仕の存在を高める時がきました。職業奉仕の概念はロータリー特有のもので、ロータリアンが高い道德基準や事業と専門職での指導力を通じて知られていた創立当初より、私

たちの組織の特徴となっています。

しかしながら、近年、ロータリアンが専門職や同業者団体などで活動することが少なくなってきました。その結果として、かつての職業上の影響力がやや失われ、全体的な職業奉仕活動の効果が低下してきています。今年度、職業奉仕をロータリーの原点に戻すよう努めましょう。

10月の職業奉仕月間は、ロータリーの第2奉仕部門に対する私たちの公約を新たにする最高の時です。

RI理事会は1997-98年度の最初の会合で、この特別月間を挙げるいくつかの方法をロータリアンに提案しました。職業奉仕月間という機会を用い、RI理事会は次のことを実施するよう、すべてのクラブや地区を奨励しています。

- 地区レベル行事でロータリーボランティアの表彰。
- 趣味・職業別親睦活動への参加促進。
- 職業奉仕活動やプロジェクトの支援。
- 未補填職業分類への会員増強推進。

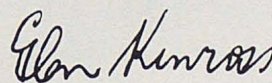
しかし、職業奉仕は10月だけに限ったものではありません。ロータリー年度を通じて、クラブや地区の活動に職業奉仕を取り入れる方法を見いだしましょう。各クラブにできることは、職場での機能的識字を推進すること、求職者のための支援グループ設置、コンピューター技術のない従業員への教育、職業訓練校にコンピューターを寄贈すること、また、地元の職業や事業団体と一緒に同じようなプログラムを実施することなどがあります。

職業奉仕には、若者たちの指導者となり、彼らの職業上の技術向上を手助けするという部分もあります。今日、職能上無知で、生涯の職業のための準備となる訓練が受けられない若者たちがあまりにも多すぎます。たとえ、訓練を受けた人でも、就職口の少ない経済状況と向き合っている場合もあります。このような若者たちは、有益な仕事を成し遂げるこ

とや給料袋を持ち帰ること、彼らの仕事や人生が評価され、感謝された故、誇りを持って堂々と立つことの喜びを一度も味わったことがないでしょう。

日常、職業奉仕とは仕入れ先や顧客と公正で誠実な取引を行い、高レベルの品質管理やサービスを続け、調和のとれた労使関係を育成するということになります。私たちの職場や労使間契約の交渉を行う場では、ロータリーの職業上の影響力が絶対必要です。

ロータリーが、有意義な活動や影響力を発揮するために会員たちの事業および専門職の技術を上手に利用することができたら、すべての人々により良い生活を与えることができるでしょう。ロータリーの義務は、人間の義務そのものです。ロータリアンが、職業奉仕の根本方針にあらためて専念すれば、世界中の職場や地域社会で「ロータリーの心を」示すことができるでしょう。(RI指定記事)



グレン W. キンロス
1997-98年度RI会長



職業で「思いやり」の普及を

R I 職業奉仕委員会

委員 中島治一郎（泉大津）

「ロータリーって、一体何？」という質問に突然出くわすと、一瞬戸惑った後、種々な答えが返ってきます。

「世の中を住み良い所にしようと奉仕を心掛け、実践している親睦団体」といったところが、平均的な答えでしょうか。

もっと極端に、「親睦を深めることを旨とする仲良しクラブ」と答える人もいますでしょう。そういう人は、私の文を読み進む意欲を失われるかもしれません。まあ我慢して、もう少し読み続けてください。

「会員同士の仲間意識を高め、その友情から生ずる良質のエネルギーを放出して、地域社会において、また職業にかかわる場で、そして国際的ななかかわりの中で、思いやりを普及する努力をしようと心掛けている人々の集まり」と、私は答えることにしています。さらに、「ロータリーには、他の団体にはない、誇るべき2つの宝物があります。それは、「1業種、1会員の制度」というルールと、「利己と利他の調和」という哲学であります」と、付け加えることにしています。

「1業種、1会員の制度」は、ロータリーの創成期から採用されたルールで、会員間に同業故の遠慮や争いをなくし、親睦増進に非常にメリットがあります。それよりも、会員が、「私は、私の業種の代表選手」という自覚を持つことに非常な意義があります。そして、その業種のリーダーとして、部下、同業者、仕入れ先、得意先、等々に思いやりの普及を図り、同時に全体の倫理レベル向上に努め得る

ことに大なる喜びや感動を味わうのです。

例会は、接する人々に影響を与え得るリーダーとしての自己研鑽けんさんの場であります。会員とのフェローシップを深めながら、お互いに「利己と利他の調和」を学び合い、世の弱者に救いの手を差し伸べる努力を通じて、自己改善に努めるのであります。

常に利己と利他の調和を図り、それが身についた人、言い換えれば、思いやりに満ち満ちた人、思いやったことを実現する努力をする人、すなわち真のロータリアンをつくり出すことこそが、ロータリーの存在価値なのであります。

今の日本で問題になっている銀行、証券業界の不祥事は、己の企業が利を得、守ることにきゅうきゅうとして、社会の利、社会の発展との調和を図らなかったことに起因します。真のロータリアンが、企業を経営し、その業界のリーダーシップを取るとき、全体がバランスの取れた、社会の発展に寄与し得る存在になりましょう。そういった業界の集大成こそが、心豊かな人々で満ちた、潤いのある、住み良い社会を生み出すに違いありません。

親睦を旨とする仲良しクラブも悪くはないでしょう。しかし、せっかく業界のリーダーとして選ばれ、ロータリークラブのメンバーとなったからには、単に「ロータリークラブの会員」ではなく、「真のロータリアン」として社会の発展に寄与したいものであります。

第2640地区（大阪府南部・和歌山）P G



職業奉仕の原点を原典に探る

『ロータリーの友』委員会
顧問 田村 健治 (米子)

いよいよ、10月は「[※]職業奉仕月間」です。『友』8月号のR Iテーマ座談会で、本年度のR I会長、グレン W. キンロス氏のテーマ「ロータリーの心を」の底流に流れているものは、一人ひとりのロータリアンを職業人として認識し、「[※]職業奉仕こそ、最もロータリーらしい奉仕部門であり」、「職業奉仕を再認識し、その原点に立ち返ろう」と語られていました。

不肖、私も前年度ガバナーを務めさせていただきましたが、任期中、職業奉仕に最も関心を持ちました。各クラブの公式訪問や、I Mの討論の中でも、皆様の関心が深かったようです。

それは、昨今の日本の社会が、繁栄の道を歩みながら、精神的に墮落し、経済的社会的な不祥事、あるいは犯罪が後を絶たない状況に、職業倫理の高揚^{うた}を唱うロータリーとして、世直しの一役でも買うことができるのではないかと考えていたからであります。

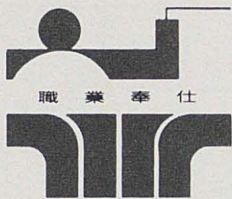
そこで原点に戻って、R Iの標語、綱領、職業宣言等をたどりながら、皆様と論議を重ねましたが、結局のところ、「奉仕の理想」という究極の目的について、明確な理解のないままに、自利と他利の調和といった程度で、われながら釈然としませんでしたが、ポール・ハリスの著作『ロータリーの理想と友愛』の第11章「奉仕の理想の意味」を見いだし、非常に明確に、かつ大胆に述べてあるのを読み、もやもやしていたものが、ふっ切れました。

今さら、ロータリーの創設者の名著を、大先輩に披露することはないのですが、私自身の勉強として、拾い読みに書かせていただきます。

- 奉仕の理想とは、受けるべき物質においてでなく、まず与えるべき奉仕に着眼すべきである。(奉仕第一、自己第二)
- 奉仕の理想の運動にとり最大の障害となる一事實は富の崇拜である。
- 財産獲得欲は奉仕の理想とは両立し得ない。
- 繁栄は^{どろけい}憧憬されるが^{どうや}窮乏は悲嘆される。逆境が偉大な人格陶冶の母であること、強力な国民は決して繁栄のうちに育まれたものではないことをわれわれは忘れる。
- 人間の努力、要求する目的がただひとつ利得にあるとすれば、社会は必ず墮落し、個人間、集団間および国民間の確執は絶えず増大し、その終局は破壊である。

こうしたストイックな、マックス・ウェーバーの言う資本主義の精神から、ロータリーは始まったわけですが、果たして、今日の日本のロータリアンに賛同が得られるものでしょうか。

ハリスは、この点について、「今日の実業家が成功するためには、顧客、使用人、競争者、仕入先、公衆に対して正しくなければならない。決して容易なことではないが、成功者の大部分はかかる責任を是認し履行した結果によるものである」と。私たちは、清水の舞台から飛び降りる覚悟がいるようです。



あなたの職業にロータリーの心を

職業奉仕活動の事例

ハウスヘルパー

湯本 加藤 宏泰

四方を奥羽山脈に囲まれた高原性盆地、岩手県沢内村、その隣の湯田町と両町村をテリトリーとする湯本RCが私たちのクラブである。昨年6月、当クラブの会員が中心となって「沢内村ハウスヘルパー」というボランティア団体を発足させた。

高齢者世帯や母子家庭などを支援するとともに、独り暮らしの高齢者を元気づけることを目的として地域内の大工、左官、板金工、それに電気、水道関係の技能者に呼びかけ、当初12人が登録、村内のこれら家庭の住宅補修に労力奉仕を続けて感謝されている。ちょっとした戸のたてつけや「戸車」の交換、窓ガラスの入れ替え、トイレや浴室の手すりの取り付け、ドアや棚の改善、敷板の修理など幅広い修理を手がけようとするものである。

年に2回、5月と11月に統一活動日を設けて、あらかじめ村の社会福祉協議会を通じて申し込みのあった家庭を訪問、工具を使って丁寧に修理したあと、高齢者などと懇談するなど交流を深め、力づけている。昨年は計43世帯に出向き、労力奉仕を行った。今年は15人が登録、要望が



あれば休日に随時出動している。

代表の松川厚一（建築業）さんは、当湯本RCの会員で、沢内村商工会の会長であり、隣の湯田町を含めた西和賀技能者組合の組合長でもあるが、10年程前から組合員に呼びかけ、両町村の家庭の刃物研ぎを安い賃金で引き受け、その収益のすべてを両町村の社会福祉協議会に寄付、福祉に役立てているなどして、数回にわたり表彰を受けるなど、まさに「職業奉仕」を地でいくその活躍は目覚ましいものがある。

（第2520地区・岩手県）

漬物の秘伝を伝授

東根 横尾 昭男

「東の山形、西の京都」といわれるほど、山形は漬物がおいしい所とされています。特に、山形の漬物は、プロより上手なおばあさんたちが方々において、親から子、子から孫へと受け継がれ、さらに工夫が重ねられてきています。

30年以前に、大学時代のアルバイトが縁で、私は漬物屋を漬物の本場で始めてしまいました。全くの素人がアルバイト程度の勉強で漬物を漬けても売れるわけがありません。いろいろな所で試食即売を試みましたが、試食したお客様に「私の漬物の方がおいしいわよ」といわれることもしばしば。そんなとき、素直に「どうすればおいしく出来上がりますか？」とお尋ねすると、中には「ごちそうしますよ」という親切な方にも出会い、おいしい漬物のあるお宅を毎月1軒また1軒と訪ね歩きました。その中で、漬物の中に込められた生活の知恵や、漬ける人の愛情をいっぱい感じ、つつい現在まで続いています。

その後、家庭内での伝承が、時代とともに徐々

に薄らいできていることを察知し、1983年、現在の漬物工場のオープンと同時に、従来、人々の好意で教わってきた漬物の秘伝を伝授する「漬物道場」を開設いたしました。地域に根差した企業だからこそを試みだと思っています。今では、山形観光の一つの名所としても知られつつあります。

この漬物道場では、主に町おこしや村おこしのためにと、婦人会や農協婦人部の方々の入門者が圧倒的に多いようです。年間1万人程度、入門者の中で企業化した人も3社になりました。最近では、農村の花嫁不足で、韓国から花嫁を迎えて、彼女のキムチの良さに、漬物道場での商品化の勉強を加えて、デパートなどでの催事で大いに実績を上げている人もいます。

このように、「漬物道場」を開いて漬け方や売り方を他人に教えたら自分の漬物が売れなくなるのではと心配してくれる人々が同情して買ってくれるので、「漬物同情」ともいいます。

(第2800地区・山形県)

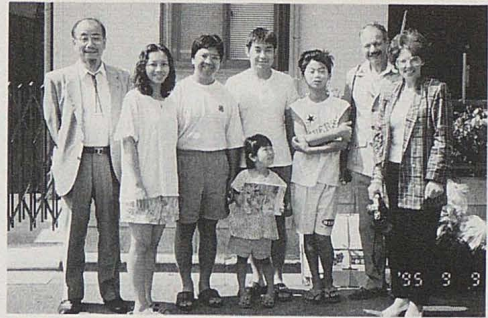


日本語教育で留学生を支援 —近藤功会員

浦和北東 星野 和央

近藤功会員は、越谷市にある文教大学文学部日本語教員養成コースの教授。1992年に越谷北RCの会員となり、以来5年間、ロータリアンとして熱心に活動を続け、本年度は第2770地区の世界社会奉仕委員を務めている。

近藤さんは、日本語教員の養成という自分の専門を生かし、毎週日曜日に越谷市の「日本語の家」で留学生のために日本語教室を開いている。「日本語の家」は86年に近藤さんが創設し、留学生が日本人とともに生活をしながら言葉が



日本語の家の前で
左端が近藤氏

学べるようにという趣旨で古いアパートを借り切り、ご自身も週末以外は留学生とそのアパートで暮らしていた。

—昨年、自宅を新築した際に1階を「日本語の家」にして、4畳半5部屋と、共用の居間、台所、シャワー、トイレ、近藤さんの仕事部屋を作った。留学生の家賃は水道・光熱費込みで3万5,000円と、周辺のアパートと比べて割安である。「日本語の家」が移転し新しくなっても、日本語教室は引き続き開かれ、ここで引き受けた留学生は49人に達して、卒業後も交流が続いている。

この活動について、近藤さんは「自分がしていることが職業奉仕として価値のあることかどうか、見方によっては単なる下宿屋稼業かもしれません。とはいえ、自分としては、本務の延長線上で顧客である外国人日本語学習者に対し、求められるサービスを提供し、なるべく短期間で目標に到達してもらうよう努力しているつもりです」と話している。

さらに近藤さんは、バングラデシュの「ロータリー・ベタギ・ユニオン・ハイスクール」で1996年3月に1週間、同年12月に2週間、本年8月にも4週間、「日本語と日本事情」の講座を開設し、同校へのソフト面での支援を続けている。

(第2770地区・埼玉県)

小学校のウサギ

四日市北 川瀬 光男

I serveが職業奉仕であるならば、自分にできる奉仕が何であるかを考えた時に、獣医師として、以前から傷ついた野生鳥獣の治療に当たっ

てきました。しかし、最近、幼稚園や小学校で飼育されているウサギやニワトリが、ひどい状態で病院に持ち込まれてくるのを見て、明らかに飼い方に問題があるのではないかと思うことが、たびたびありました。そこで、こちらから小学校へ出向き、飼育小屋を直接見て、飼育係の先生や子供たちと話し合うことが必要ではないかと思いました。

動物についての知識や、病気にさせない正しい飼い方を指導して気付いたことは、学校飼育動物は、産業動物や展示動物といった位置付けではなく、われわれと同じ家族の一員であるということです。最近問題になっているような、逃げることしか知らないウサギやニワトリが、いじめの対象になっていることは、誠に悲しむべきことです。従って、講義の内容は、病気の治療ではなく、とても難しい問題ではありますが、未来を担う子供たちにウサギやニワトリの目を通して、生や死ということを考えてもらったり、思いやりの心を育ててもらうことが中心となります。その後で、飼育小屋へ行き、子供たちに直接ウサギを抱いてもらって、そのぬくもりから生命の大切さを知ってもらうように心掛けました。

子供たちとの対話は、学ぶべきことも多く、自分の仕事への励みや喜びともなります。今後とも機会があれば、いつでも気楽に出かけてゆきたいと思っています。(第2630地区 三重県)



プロの話

三田 山本 光洋

三田市社会福祉協議会では、毎週火曜日と木曜日に「高齢者つどいの日」を開催しています。



参加対象は市内全域の高齢者、参加費は無料で、講座、ヨガなどの健康体操、手芸などの創作活動、演芸観賞、その他の活動をしています。高齢者にとっては仲間づくりの場として好評で、しかも各地域を送迎バスが回ってくれることもあり、毎回多くの参加者を得ております。

三田南RCでは、社会福祉協議会からの依頼を受けて、この集いの講座に講師を派遣しております。そして、現在は三田RCが担当して講師を派遣しております。

講師として派遣された会員は、自らの専門職業を通じての話、例えば、医療関係者ならば寝たきり老人介護の話、歯科の話、眼科の話など、また薬剤師の場合は、上手な薬の飲み方などの話をします。そして金融関係の人が話しに行きますと、安心した老後を過ごすための上手な貯金の仕方について話し、その他には遺産相続の話もあれば、盆栽、植木の手入れなどの趣味に通じる話、また宗教家が行けば、心の面の話をするといったように、それぞれの会員が多種多様な話をいたしております。

参加者の側からしますと、それぞれのプロから話を聞ける訳ですし、また日ごろは聞きにくいことなども、この機会を通じて質問ができる訳ですから、たいへん喜ばれております。

このような活動ができるのも、各業種を代表する人材によって構成されているロータリークラブならではのであります。また講師に行く会員にとっても、ロータリアンとして人前で話す訳ですから、自らは職業奉仕を大切にしなければならず、その意味においても素晴らしい活動であるといえます。(第2680地区・兵庫県)

ロータリーの原点に戻る年

八千代 鈴木 憲輔

キンロス会長は、今年度テーマにおいて四大奉仕の再確認を示す握り合う4つの手をシンボルマークに選び、また「職業奉仕を再認識し、その原点に戻りましょう」と述べておられます。残念ながら、ロータリーは、1987年に「職業奉仕における新方針」の採択によって、職業奉仕の意味は「自らの職業を通して奉仕する」のではなく、「人様の職業に対する奉仕を主とするもの」に変えられました。その理由は、職業奉仕はロータリアンにとって意味がとらえ難いということによるものでした。

私共の地区の職業奉仕委員会では、1995年に「職業奉仕の意味は少しもとらえ難くはない」という表題の下にシンポジウムを開き、報告書をRIに送りました。この時、RI会長に代わって返事をよこされたのは、社会奉仕担当プログラム・コーディネーターのアイデア・オルコネン氏で、RIでは当時既に職業奉仕には専任のコーディネーターは置かれていなかったことを私共は知りました。

新方針では職業奉仕の意味はとらえ難いと言っておりますが、それは、明らかに職業の目的を個人財産の蓄積として考えているからではないかと思えます。しかし、職業によって私共が得るものは、その報酬であって、「職業本来の目

的は、どこまでも社会という全体の創成にあると思えます。

ロータリーの綱領では、その第2項として職業奉仕について3つの条件が述べられております。その第1は、ロータリアンの高い道徳的な水準であり、第2は職業が社会分業であることによる他の職業に対する相互尊重の認識であり、第3は、自らの職業を通して社会に奉仕するものとしての品位の自覚であります。

この3つは、個人が行う職業というものが、社会という全体をつくる要素であることによるものであって、職業奉仕は、この職業の本質の自覚の下に個人がよりよい社会の創成のために尽くすことをいっているのだと思えます。

キンロス会長の職業奉仕の原点に戻るとは、この綱領第2のポール・ハリス以来の理解に復帰すること以外には考えられません。今や、私共は、自らの職業において、品質管理や顧客満足というようなこともロータリアンの使命として行うことが可能となったのです。

経営者としての真の自覚と行動、すなわち、職業奉仕は職業人の団体であるロータリーの最大の特色であり、また、ロータリーの私共に対する大きな魅力でもあると思えます。

(第2790地区・千葉県・PG)

第2回 無料相談所開設

古川RC
職業奉仕委員会

当クラブでは、本年8月3日の古川まつりの折、市内の中心にある空き店舗を利用して「無料相談所」を開設。ロータリーの職業奉仕の理念に本来込められている命題の一つである「自己の職業上の手腕（当クラブでは職能と理解）を社会の問題やニーズに役立てること」を実践するため、会員の職業の専門性（職能）を発揮し、市民の各種相談に応じた。今回の相談種目は、「医療」「法律」「教育」の3件とした。

(第2810地区・宮城県)

